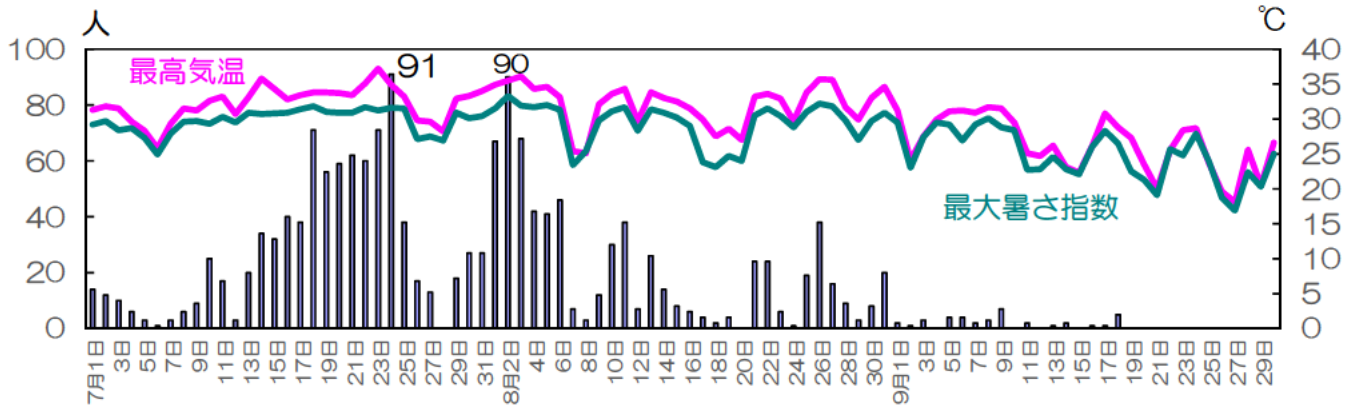


熱中症情報

<搬送数>

平成30年5月1日～9月30日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,711人（5月23人、6月84人、7月883人、8月683人、9月38人）でした。7月中旬以降、各地で観測史上最高を塗り替える記録的な高温となり、7月18日以降は、連日50人以上搬送され、24日は91人でした。7月26日以降は、最高気温も30℃以下で、一端は減少しましたが、8月上旬にまた増加しました。9月に入り、1日当たりの搬送数は10人以下と減少し、9月19日以降は0人でした。

記録的な高温のため、今年の搬送数は、平成27～29年（各年5～9月）の3年間の平均値と比較すると、平均の2.2倍でした。5月は0.7倍と少なかったものの、6月2.0倍、7月2.7倍、8月2.1倍と多かったです。



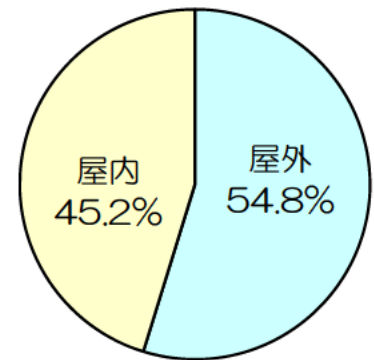
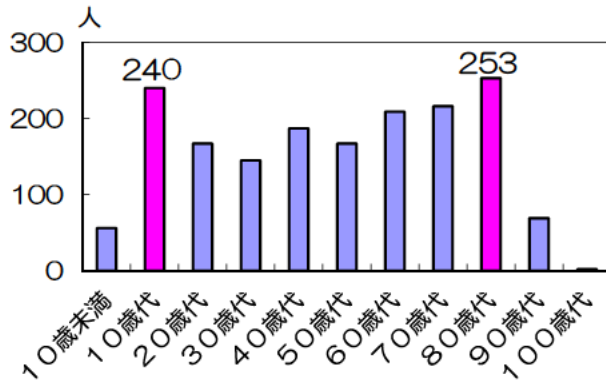
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「[環境省熱中症予防情報サイト（暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別>

年齢別では、80歳代が一番多く14.8%、次に10歳代で14.0%でした。

<発生場所>

屋外54.8%、屋内45.2%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度>

軽症60.8%、中等症35.6%、重症2.9%、重篤0.7%、死亡0.1%でした。

重症以上は62人で、65歳以上が66.1%で、そのうちの63.4%が屋内で発生していました。高齢になると中等症以上が増加し、重症化の傾向が伺えます。

